

子の食欲

最近、夕食のメニューを聞かれることも少なくなりました。というのも、夕食で両親と同じものをなるべく大(まさる)に食べさせてやりたいという想いなのかもしれませんね。大は、おっぱい(母乳)現役です、こうした食事に関してはいあんまり欲がないようです。まこちゃんとしては、食事も一生懸命に食べてほしいという願いがあって、いろいろな工夫をして食事を作ることに対して、大が食べないことでの落ち込みは大きいようですが、シンプルにしたり、好きそうなものを加えたメニューでの工夫は続き、たくましいなあと思います。そんなこんなで、大が一生懸命食べるとき、まこちゃんには上機嫌になり、食事もあるく楽しくなります。

以前、母から聞いたことがあります。―親と



元気がいいね

しては、最後まで子供の健康を願うことをしたい。大が食べないで心配するまこちゃんの気持ちは、母親の想いなんです。『おなか減ったら食べるやろ』と思うのは、私だけなんです。調理する 汗が子供の 元気出す 八月四日

旧友と集う

以前にユニチカバレエ部に所属していた原田さん(旧姓、平瀬さん)、北村さん、村田さんと現役の高松、吉田、私の六人で集まる機会を同じく現役の小川が設けてくれました。当時は週一で練習をしたり、試合一週間前は必ずみんなで練習をやったり、また合宿などを貝塚の体育館等を利用してやっていました。頻繁に集まる分、それだけ、飲んで楽しむ機会も多かったように思います。今ではこんな機会はありませんが、「ハクシオン大魔王」のテーマソングを何度も何度も熱唱させてもらい、はじめて楽しんでることを思い出しました。

現在は、離れて、会う機会がほとんどなくなっても、共に一生懸命汗を流し、楽しんでくるとの思いは消えてなくなつたわけではなく、その当時のことを再度楽しむような雰囲気にも包まれ、また今も、みんなこうして会うことができると感じました。何年ぶりであっても同じ雰囲気から始まって、それが生きる力になったり、元気づけになったりする仲間なんやなあと思いました。

旧友の 今も変わらぬ 汗感ず

八月十二日

がんばれ家族

昨年、ちよこっとクーラーを入れました。そしたら、電気代がすごいのに腰をぬかし

干したてのおふとん

我が家からアルコールが無くなって数ヶ月経ちます。なんちゃん、あると飲みたくなるからと買い置きをしなくなり、メキシコのお土産で頂いたテキーラまですっかり飲みほしてしまい、飲みたい時に(ほとんど毎日)買ってくるようになったのです。

最初は仕事の帰りに買っていたのですが、エコロジ&健康のため瓶ビールにかえてから空き瓶がたまるようになったので、一旦家に帰ってお散歩がてら大と一緒に空き瓶を持って買いに行くようになりました。

何日かすると大も夜のお散歩を楽しみにし、お父さんが帰ってくると空き瓶を持ってきて出かけようとするようになったのです。何かお手伝い(?)したくてたまらない最近の大です。

八月二十七日

てしまい、それ以来、クーラーを入れずに過ごしています。今年、まだ一度もクーラーのスイッチを入れていないお陰で、電気代を支払う私としてはかなり助かっています。冷夏という気候にも助けられています。大の汗もはひどくなったり、やわらいだりの連続、まこちゃんのお母さんも食欲が減ってきて、まこちゃん自身も、料理をするのに灼熱の調理場でやる気を奪われながら、がんばっていて、電気代のためとはいえ、とても支えてもらっている感じがします。一日に消費する麦茶の量が四・五リットルと、ものすごい勢いで飲み、汗とともに流れていきます。冗談で私が「汗くちやくちやくお父さんが帰ってくるよ。鍵を開けておこうね」と言っていました。家族全員が汗くさくなり、特に大は何度も行水をするのですが、またたくまに汗くさくなります。「ただいま」

と帰ると今は「おかえり〜、大、お父さんもくちやい〜くちやいで帰ってきたよ〜」と家族みんな、くちやい〜くちやい〜夏を味わっています。汗くささ、みんなくさけりや

楽しいな

八月二十二日

支えられ
励ましてもらい
生かされて



千中会 八月二十四日

転居しよう思っておりです。理由はいろいろなんです、父に転居したいことを相談すると、いろいろな方策を駆使してくれました。「こんなこともあるのか」という慮りのものを与えてくれています。自分だけでは行き詰まるという、そんなことを慮ってくれたことを今更ながら感じ、こんなことを大にすることができるといふか、これからの考えなければいけない課題も見えてきました。

転居を考えている場所や周辺の施設、商店を母は下見に行ったりして、楽しみにしていることも感じられ、うれしく思います。

まこちゃんは、金銭面での苦勞をかけることに対して「ピンボーがんばりましょう〜！」と楽しむ風で、まこちゃんのお母さんは、スパーに近いこともあり喜んで受け容れていました。支えられ、励まされて、生かされて、行動できている自分を感じています。

今日、店の前面、高価な大きなガラスを不注

意で壊してしまったときに「しっかり稼ごう〜！」というまこちゃんの言葉に、落ち込みがフツと軽くなった、そんなこともありました。みんなありがとう。

生活を 心と汗に 支えられ

八月三十日

深感恩

お便りありがとうございました

◎伊東 裕子様（豊中市）

八月六日



◎馬場 知子様（大阪市住吉区）

八月二十日

二十四日の千中会残念だけど行けません。私の分も楽しんできてね。

ちなみにテーマの「嬉しかった言葉」は、人のことをブタ呼ばわりする。ママの言葉にマサトが「パパ何を言ってるの？ママはカワイイママなのにな！」と大まじめに反論してくれたことです。

ちなみにマサトを産む前から比べると私は七

キロも太っています・・・。

*** **

一冊の本から抜粋

李登輝著

『武士道』解題

―ノブブレイス・オブリージュとは―

小学館、税別一七〇〇円

◎私自身が日本の教育の中で豊富な知育と徳育を授けられ、それを通して知識や知恵に目覚め、「人間いかに生くべきか」という根本的な哲学や理念を身につけてきたからこそ、なおのこと、この人類史的危局の中において必要とされている「日本の心」の大切さを、思い起こさずにはいられないのです。

敷島の和心を人間はば

朝日に匂ふ山桜花

これは、私が敬愛する新渡戸稲造先生の名著『武士道』の中で改めて紹介されている本居宣長の和歌ですが、この「和心」こそ、日本人が最も誇りに思うべき普遍的真理であり、人類社会がいま直面している危機状況を乗り切っていくために、絶対に必要不可欠な精神的指針なのではないでしょうか。

しかるに、まことに残念なことには、一九四五年（昭和二十年）八月十五日以降の日本においては、そのような「大和魂」や「武士道」といった、日本・日本人特有の指導理念や道德規範が、根底から否定され、足蹴にされ続けてきたのです。

日本が驚異的な経済成長と繁栄の絶頂にあった頃なら、まだそれでも良かったのかもしれない。しかし、「十年不況」に打ちひしがれ、依

然として前途に明るい曙光を見いだしえぬ今日のような窮地にあつて、そのような自虐的価値観は日本人ばかりではなく、世界の人々にも大きな打撃と失望を与えずにはおかないのです。なぜなら、国際社会全体が不況と不安に晒されているときに、最も頼りになるべき国のひとつ（日本および日本人）まで混乱と混沌の中を漂流し続けていたら、人類社会そのものが羅針盤を失いかねないからです。

いま日本を震撼させつつある学校の荒廢や少年非行、凶悪犯罪の横行、官僚の腐敗、指導者層の責任回避と軋嫁、失業率の増大、少子化など、これからの国家の存亡にもかかわりかねないさまざまなネガティブな現象も、「過去を否定する」日本人の自虐的価値観と決して無縁ではない、と私は憂慮しています。そして、この傾向をこのまま放置しておけば、日本だけではなく世界全体が不幸になる、と心の底から危惧しているのです。

○私が初めて『武士道』という本に出会ったのは旧制の台北高等学校のころですが、最も尊敬する新渡戸稲造先生の生き方も相俟って、まさに雷に打たれたような衝撃を受けたものです。「武士道」などというと、とかく封建時代の亡霊のように言う人が多いようですが、新渡戸先生が精魂を込めて書き上げたこの本を本当に真撃に精読すれば、そのような受け止め方がいかに皮相で浅薄なものか、すぐにわかるでしょう。

本書の中で、私は繰り返し繰り返し「いま、なぜ武士道か」という問題を、日本および日本人に対してだけではなく、私自身に対しても問いかけています。それは、このような危急存亡の秋にこそ一人一人の社会の成員が「生き方の心得」とも言うべきものを再認識し再点検しなければならぬ、と固く信じているからにはなりません。この大命題を自他ともに厳しく問

い詰めなければ、とても国家や国民の未来は見えてこない、と確信しているからこそです。

特に、これからの日本を背負っていかねなければならぬ若い人々は、ややもすれば未来への指針を見失いがちのように思えてなりません。そして、その大部分の責は確乎たる姿勢と信念を見せてこなかった大人たちが負うべきだ、と私は思います。なぜなら、子供は親の背中を見て成長するからです。戦後社会の混乱の中で、日本の大人たちは、それまでの世界的に素晴らしかった精神的な価値観をないがしろにし、「高度成長」のかけ声の下で物質主義的で拝金主義的な価値観ばかりを追い求めてきたのではないのでしょうか。そのような親たちの世代の生き方を目の当たりにしてきた若い世代が、物質主義的な方向に走り出したとしても、誰も文句は言えないはずです。そして、それはまた、日本の戦後社会に燎原の火のように燃え広がったマルキシズムなどの「唯物主義」(Materialism)とも決して無縁ではなかった、と私は思っております。

「武士は食わねど高楊枝」という毅然たる生き方はいったいどこへ行ってしまったのでしょうか？ 国家百年の大計に基づいて、「清貧」に甘んじながら、未来を背負って立つべき世代に対して「人間いかに生きるべきか」という哲学や理念を率先垂範して見せてくれたはずの高級官僚や政治家、経営者などのトップ・リーダーたちまでもが、私腹を肥やすことに汲々とし、国家や国民の未来のことなど、すなわち「公」的なことを何ひとつ考えていなかった、としかいえない現実を知ったとき、若い人々がどんなに大きな衝撃を受けたか想像に難くありません。自らのリーダーシップの欠如によつて招き寄せられた国家や企業の大失敗に責任を取ろうとする人として自発的・積極的に責任を取ろうとする者が見えず、国民の血税である「公的資金」で

穴埋めすれば済むとしか考えていない。それが「公に奉ずる」ということだったのでしょうか。

私が声を大にして「武士道」を再評価しようと言っているのは、日本および日本人本来の精神的な価値観をいま一度明確に想起してほしいと、祈るような気持ちで切望しているからです。民族固有の「歴史」とは何か、「伝統」とは何かということをも、もう一度真剣に考え直してほしいのです。

○かつて、私は台北郊外の聖なる山・観音山に妻と孫の三人だけで登ったことがあります。深い霧に包まれて一寸先も見えないような中で峻険な山道を、一歩また一歩と足を踏みしめながら登って行って、ふと気が付くと、私はいつの間にか頂上に立っていました。

突如、一陣の風が吹いてきて、一望千里の視野が開けてきました。足元を見ると、一メートル四方ほどの切り立った岩の上にいる自分に気がついたのです。観音山の頂上はたったそれだけの広さしかなく、一歩でも足を滑らせたら最後、奈落の底に転げ落ちてしまうのです。そのとき私は、一つの天啓のような不思議な気持ちに包まれました。

「一人なのだ。たった一人なのだ。誰も助けてはくれない。生きるも死ぬも、自分一人です。立っていかねければならないのだ」

それ以来、私も、新渡戸稲造先生が喝破された人間社会の「横の関係」を全く気にしないようになりまし。すなわち、世間の誤解や非難など気にならないようになったのです。

総統時代も、あの観音山の頂上に立ったときの気持ちでやってきました。「特殊な国と国との関係」(台湾と中国の「二国論」という言葉が、突如私の口を衝いて迸り出たときもそうでした。一国の指導者たるものがそんな言葉を使えば、いったいどんなことが起きるか、私にもそれは

千中会白書(連絡書)

九月度(9/10~10/25)

千中会レポート

・8/24(日)午前11時00分、千里中央公園(豊中市新千里東町)

参加者、あんちゃん、かつつん、小林さん、曾根さん、小菅さん、まこちゃん、大、なんちゃん計八名

テーマは、「うれしかった言葉」でした
みなさん持ちよりのお弁当を交換し合っ
つたりと和みました
テーマ語り合っの忘れませんでした すんません

酔っぱらいの記録(8/31現在)
かつつん七三一回
あんちゃん七三一回
かずさん七〇六回
みえさん七二二回
たつぎさん七二二回
なんちゃん七三〇回

平成13年4月16日(千中会)よりカウン
ト
一〇〇回達成毎にリセット会(全員一〇〇
未満単位切り上げ飲み会、参加自由)があり
ます
7/28(月)に七〇〇リセット会がありま
した
七〇〇回リセッターは、なんちゃんです
酔っぱらいの記録用紙は
<http://www.katumoto.com>
からダウンロードできます

今から参加される方は、七〇〇回から始め
て下さい
千中会(会費、約四〇〇〇円)
第三七回会合
9/11(木)午後8時00分
南里文具店前集合

テーマは、「思いっきり〜したい」です
(思いっきりケーキを食べたい〜とか教えて
下さい)

第三八回会合

10/16(木)午後8時00分
南里文具店前集合

テーマは、「今日の私をほめましょう」です
(早起きができたとか、〜をやり終えたとか
教えて下さい)

大阪読書会(会費、一〇〇〇円)
・第三八回例会(シクラメンの間)
9/21(日)午前9時30分~12時
・第三九回例会(シクラメンの間)
10/19(日)午前9時30分~12時
両日ともホテルアウイーナ大阪(上本町六
丁目)にて
森信三著「幻の講話」、「一日一語」輪読他
(テキストは用意しております)

EMM (Early Morning Meeting)
(読書会、無料、テキストも用意しています)
毎週木曜日、午前7時~7時30分
ナンリビル六階倉庫(大阪市北区)
森信三著「修身教授録」、「一日一語」輪読

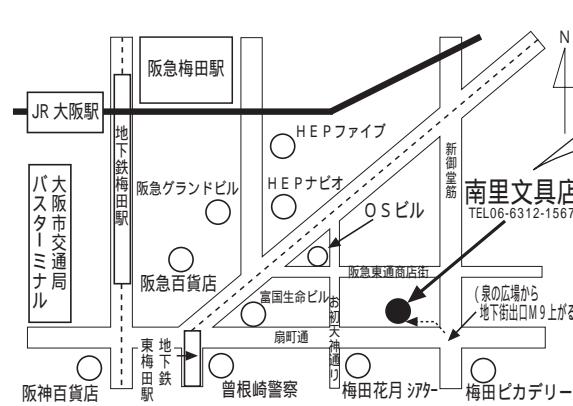
e M (evening Meeting)
(読書会、無料、テキストも用意しています)
毎週火曜日、午後8時~8時30分
ナンリビル六階倉庫(大阪市北区)
森信三著「幻の講話」、「一日一語」輪読

パレーボールの試合あります
・豊中市秋季大会
9/28、六人制男子、豊中市立庄内体育館
10/12、九人制男子、豊中市立豊島体育館

月刊きょうでき来月号は、10/10から配布
いたします

制作編集 南里文具店
印刷 株式会社 至誠堂
発行人 南里吉彦
〒五五九-〇〇一
大阪市住之江区東加賀屋
1-1-7-2105
TEL/FAX 06-6686-9333
HP 090-3165-7356
E-mail: cyn01366@nifty.ne.jp

月刊きょうでき
平成十五年九月号(非売品)
通巻第42号



ぶんぐは
夢を描く
お手伝い
ぶんぐやさんは
夢をかなえる
お手伝い
〒530-0018
大阪市北区小松原町1-4
ナンリビル1F
<http://homepage3.nifty.com/nanri/>

はつきりとわかっていました。しかし、私を立
たせているのは私だけしかないのだ。また、
台湾を立てているのも台湾だけなのだ。究極
的には、誰が助けてくれるわけでもないとい
う思いのほうがあるかに強かったのです。
新渡戸稲造先生の心の中に最後まで去来して
いたのも、そのような思いであったに違いない
と私は固く信じて疑いません。なぜなら、それ
が「武士道」の発露だからです。
だからこそ、改めて、日本の方々にも言いた
いのです。
「もっと自信を持って、自らの意志で、決然と
立っていてもよいのではないですか? なぜな
ら、あなたがたこそ、『日本の魂』の真の継承
者なのだから」
と。結果は、新渡戸先生が朗々と歌い上げた、
「見る人の心ごころに任せおきて高嶺にすめる
秋の夜の月」
の心境で良いのではないのでしょうか。「いま
そこにある危機」ではありませんが、目の前に
あることを、一つずつ誠実に、自己の良心と信
念だけに基づいてやり抜いていく。結局、それ
以外にはないのです。

※きょうでき「今日の出来事」の略です。
※まこちゃん妻、正子(まさこ)です。
※干したてのおふとんまこちゃんのコラムです。
※大(まさる)息子です。
※千中会「月刊きょうでき」読者の会の名称で
す。千里中央で発足しました。
※深感謝シンカムオン。ベトナム語。深い感謝
の意を含む「ありがとう」です。